

# 第1学年 生活科学学習指導案


日 時 令和6年12月4日(水)

対 象 第1学年2組 27名


## <研究主題>

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成～キャリア教育を通して～

### <低学年の目標>【第1学年の合言葉】

 勇気をもってチャレンジしよう【やってみよう すきを見つけよう】

 今できることに一生懸命に取り組もう【いま!】

 話をすすんで伝えよう【みみをかたむけよう】

1 教材名 「かぞく にこにこ大きくせん」(教育出版)

### 2 単元の目標

家庭生活に関わる活動を通して、家庭での楽しみ、家庭における自分の生活や役割について考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることがわかり、家族の一員として、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりすることができるようにする。

### 3 単元(題材)の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かっている。	家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。	家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとしている。



キャリアの目標(学習を通して自分がどのように変容したいかをイメージさせる。)

家族のためにという願いをもって、自分にできることを考え繰り返す中で自己有用感を高め、これからの生活に自信をもって行動をすることができる。

### 4 単元設定の理由

#### (1) 教材観

学習指導要領との関連は以下の通りである。

小学校学習指導要領 第2章 第5節 生活 第1学年及び第2学年 2内容

(2) 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとする。

小学校学習指導要領解説 生活編」第3章 第1節

2 内容構成の具体的な視点「ア 健康で安全な生活」「イ 身近な人々との接し方」「カ 情報と交流」「サ 基本的な生活習慣や生活技能」

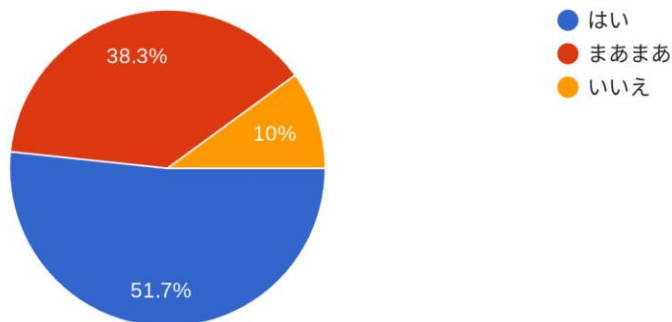
本単元は、「仕事調べ」・「お手伝いをする事」にとどまらず、継続的に実践できるようにする。

「仕事」以外の家族の楽しみにも目を向けさせ、それらを振り返ることで、自分が家庭生活の役に立っていることを実感でき、自分の役割をすすんで行えるようになることを目指している。そうして、自分のよさを見付け、自己肯定感や自己効力感を育てていきたいと考えている。

## (2) 児童観

本学級の児童は、学級内で進んで自分ができることを探し手伝いをしようという思いに溢れている児童が多い。教室だけではなく、廊下等気づいた場所の雑巾がけなど進んで行っているほかに、一人が行うと周りも一緒に行くなど一人のよい行動から動くことができる。

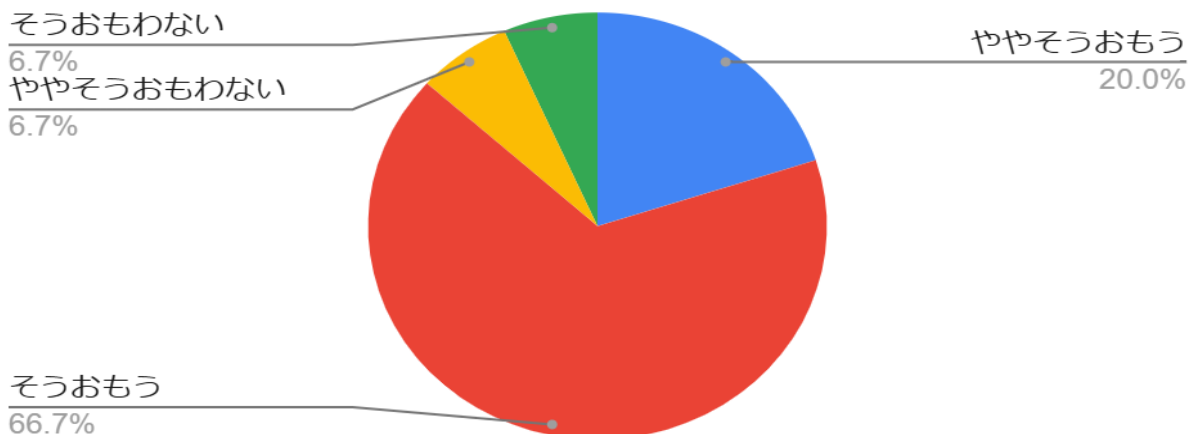
おてつだいをするのは好きですか？  
60件の回答



家庭になるとお手伝いを進んで行うことが難しいことがこのアンケートで分かった。家庭で手伝いをすることがない児童もいることが分かり、誰かがやるのを待つのではなく率先して行えるように考えさせていきたい。

学校評価児童アンケートで自己肯定感に関する項目を取り出したときの、結果は以下である。

## 18.あなたは、じぶんのよいところをいえますか。



約2割の児童が自分の良いところと言えない、あまり言えない児童がいる。学級の様子から、自分のよいところと言えないが相手の良いところ見付けることはできている児童が多いので、相手から褒められたことも自分の良いところと捉えられるようにしていきたい。

### (3) 指導観（教師の願いと指導の工夫）

本単元を通して、自分の生活の基盤である家庭生活に目を向けさせて、家族のことや自分で出来ることなどについて考える機会を与えていく。家族は、身近にいることがあたりまえで、その大切さに気付かないことがある。児童が家族の一員としてできること考え、自分の役割を果たしたり、規則正しく生活したりすることでより良い生活をしようと意識を高めさせたい。

そこで、自分と家族の一日を比べて、家族のためにしていることとそうでないことを見比べさせる。「自分にできること」を考え計画を立てることで、家族の一員としての役割を考えさせる。授業内に考えたことの他に継続的にお手伝いを行うことで、新たに気付くことがあると考える。

活動後、家族からのコメントを貰い家族からの気持ちを直接感じられるようにしていきたい。感じたことから、今後もお手伝いをしたいや家族の一員だという自覚をもたせたい。

このようにして、単元終了後も学校や家庭生活で自分で考え進んで、行動ができる児童を育てていきたい。

## 5 キャリア教育の目標に迫るための手立て



やってみよう すきをみつけよう **見つける力**

### ・自己有用感を高め、すすんで行動しようという気持ちを高めるための工夫

保護者にご協力いただき、お手伝いの後の振り返りのカードに保護者からのコメントをもらえる欄を設ける。身近な人から褒めてもらうことで、自分で考えて行ったことが誰かの役に立っている、感謝されるということに改めて気付き、自己有用感を高める。そのことが、さらに次へのやる気へとつながると考えた。



いま！

### ・自分にあった作戦をたてるための工夫 **考える力**

「にこにこ」には、「自分のこと」「家のこと」「楽しませる」などの種類があることに気付かせ、子供たちが出した「にこにこ」を分類して表にする。そうすることで、今、自分は家庭の中で何をすることができているか、どんな仕事ができそうかなどを見付けやすくし、自分ができることを考える際に自分に見合った作戦がたてられるのではないかと考えた。

毎回のワークシートをいつでも見返せるようにためていく。本時では、前の時間に調べた自分やおうちの人をしていることや、友達との話し合いで感じたことを元にして、作戦を立てるようにさせたい。

本時のワークシートには、①相手意識を持たせるため、②なぜ、その作戦にしたのかを明確にするために仕事を選んだ理由を書く項目を設けた。



みみをかたむけよう

### ・話を聞くための工夫 **聴く・伝える力**

インタビュー形式による話し合いを行う。①どんなお手伝いをしましたか②家族はなんと言ってくれましたか③どう思いましたかなど具体的な質問の内容を提示する。インタビュー形式で行うことで、自分から意見をいうのが苦手な児童も自分の意見を言えるようにできると考えた。また、このインタビュー会により、家族だけでなく、友達からも自分のしたことを認めてもらう「いいね」シールを貼り合うことで、自己肯定感の向上もねらう。さらに、

友達の意見から自分にできそうなことを選択し、仕事の内容に入れ込み作戦を行う。

## 6 単元の指導計画と評価計画（全10時間）

時間	目標	学習活動	評価基準と評価方法
1	家庭生活に目を向け、家族のことや自分の関わりについて考え、友達と伝え合うことができる。	かぞくにここにこ だいさくせん ○家族がにここにこする場面や自分の家族について思い出し、笑顔を見て感じることなどを話し合う。	【態】家族と一緒にいて楽しかったことや、助けてもらったことなどを思い出そうとしている。（発言・ワークシート）
2	自分の家族がどんな1日を過ごしているのか見たり、尋ねたりして調べることができる。	みんなの1日をしらべよう ○日常生活で自分の様子を振り返り、自分でしていることと家族にしてもらっていることを考え、家族の1日の過ごし方を調べる。	【態】家族のことに関心をもち、家庭生活を見つめようとしている。 【思】家庭生活を思い起こしたり、調べたりして、家族のことや自分のこと、自分がしていることについて、表現をしている。
3	家庭生活における家族の役割を見直して、家族が果たしている家族の仕事と、自分の生活や健康との関わりに気づき、家族のために自分ができることに取り組むことができるようする。	なにをかんじたかな1 ○自分の家族の1日の過ごし方について気付いたことを友達と話し合う。 ○家庭で仕事をする家族の気持ちを考える。	【知】家族が健康に規則正しく生活するために、家庭には多くの仕事や役割があることに気付いている。（発言） 【思】家庭生活におけるそれぞれの役割を見直しながら、自分の取組を決めている。（ワークシート）
4 ・ 5	家族が喜ぶことを考え、自分の役割に気づき、自分でできそうな仕事に繰り返し取り組むことができる。	できることにちょうせんしよう ○「かぞくにここにこ大きくせん」の計画、準備をし、計画を基に「かぞくにここにこ大きくせん」を実践する。（時間外活動） ○家庭で行った仕事についてワークシートに表現する。	【態】家族が喜ぶことを考え、自分ができることに取り組もうとしている。（ワークシート） 【知】家庭には自分でできる仕事があることや、自分の役割として家の仕事をするものの大切さに気付いている。（ワークシート・行動）
6 本 時 ・ 7	家庭での取り組みを友達と交流して、家族の大切さに気づき、家庭生活をよりよくするために、自分の役割を果たすこ	もつとにここにこ大きくせん ○家庭で行った仕事について、挑戦したことを振り返る。 ○「かぞくにここにこ大きくせん	【思】家族が笑顔になるような活動を考え取り組んだことを振り返り、友達に伝えている。（発言） 【知】家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いて

<p>・ 8</p>	<p>とができる。</p>	<p>ん」について報告し合う。 ○「かぞくにこにこ大きくせん」で行ったことや分かったことを発表する。 ○交流したことを基に、家族が更に喜んだり、家庭生活が楽しくなったりするために、自分ができる家庭の仕事を考え計画や準備をする。 (実践は時間外活動・冬休みで行う。)</p>	<p>いる。(発言) 【態】家族の一員として継続的に自分の役割を果たし、よりよい生活をしようと意欲を高め取り組んでいる。(行動)</p>
<p>9</p>	<p>活動を振り返り、家族の一員として、家庭生活をよりよくするための意欲を高めることができる。</p>	<p>大きくせんをつたえよう ○報告のための準備をする。 ○「もっとにこにこ大きくせん」について報告し合う。</p>	<p>【思】家族がより笑顔になるような活動を振り返り、工夫して友達に伝えようとしている。(発表)</p>
<p>10</p>	<p>これまでの生活科の学習活動を振り返り、自分の成長に気付くとともに季節や伝統行事について知り、家族と冬休みを過ごす楽しみをもつことができる。</p>	<p>なにをかんだかな2 ○行ったことや分かったことを伝え合い、家族からの手紙を読む。 ○これまでの学習を振り返り、家族へ手紙を書き、学習をまとめる。</p>	<p>【知】これまでの活動を通して自分自身のよさや成長に気付いている。(ワークシート) 【思】家族の一員として今後も家庭での役割をすすんで取組ながら生活しようとしている。(手紙・行動)</p>

## 7 本時 (6/10)

### (1) ①本時のねらい

家庭での取り組みを友達と交流して、家族の大切さに気づき、家庭生活をよりよくするために、自分の役割を果たすことができる。

### ②キャリア教育の目標



家族のためにという願いをもち、自分に合った作戦を立てることかできる。

時間	○学習内容または学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 前時に行った、交流を通し挑戦したことを確認する。</p> <p>○自分のため、家族のためにしていることを分ける。</p>	<p>・自分のこと、家族のことを考え挑戦できていることを理解させる。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>もっとにこにこ大きくせんかんがえよう。</p> </div>			
展開	<p>2 家族が更に喜んだり、家庭生活が楽しくなったりするために、自分一人のできる家族の仕事を考える。</p> <p>○家族がもっとにこにこするためにできることを発表させる。</p> <p>3 家族のためにできる仕事を決める</p> <p>○1週間取り組めるものを決める。</p> <p>4 作戦にした理由を記入する。</p> <p>○その作戦にした理由を記入する。</p> <p>5 班で取り組むことを発表する。</p> <p>○決めた仕事内容を発表する。</p>	<p>・誰を喜ばせたいか相手意識を持たせる。</p> <p>・一週間のうちに自分を取り組めそうなものを1つか2つ決めさせる。</p> <p>・理由と共に、内容も記入する。</p> <p>・インタビュー形式で作戦名、選んだ理由を聞く。</p> <p>・発表後には応援の言葉を伝える。</p>	<p>・家族ために一人でできることを考えることができる。(発言)</p> <p>・家族のためにという願いをもち、作戦を立てることができる。(ワークシート) </p> <p>★今までのワークシートを使い自分に合った作戦を考える。</p>
まとめ	<p>5 振り返り</p> <p>・振り返りカードに記入をする</p> <p>・全体に発表をする。</p>	<p>・実践への意欲をもつことができるようにする。</p>	

### (1) 板書計画

ちょうせんしたこと <table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; height: 40px;"></td> <td style="width: 33%; height: 40px;"></td> <td style="width: 33%; height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 33%; height: 40px;"></td> <td style="width: 33%; height: 40px;"></td> <td style="width: 33%; height: 40px;"></td> </tr> </table>							<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             もっとにこにこだいさくせんを かんがえよう。           </div> <p style="text-align: right;">○どんな一週間にするか。</p> <p style="text-align: center;">にこにこさせたい。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おさらあらい大きくせん おさらがきれいだとうれ しいから。</li> </ul>

## 8 成果と課題

〈成果〉

- ・家族のにこにこを「自分のため」「家族のため」「たのしませる」に分類することにより、家での自分の役割を考えやすくなり、家族への感謝の気持ちをもって家族の中の役割を考えられるようになった。
- ・インタビュー形式による発表を繰り返すことで、相手の話を聞いて答えようとする姿が見られるようになった。この単元以外でも、班での発表の際に応用ができた。

〈課題〉

- ・まずは「自分のことを自分で行う」ことを目標としたが、家庭の協力が欠かせないため、家庭によつての差が生じてしまう。
- ・学校での学習の後でも、家族の中の自分の役割を意識させ、継続させていくのが難しいと感じた。